

巨大ポスター合戦 ーハンガリーの政治状況

ブダペストの中心部を飾っている建築物や街路の構想は、19世紀末から20世紀初頭にかけて作り上げられたものだ。当時の政治家は私財をなげうって、ブダペスト市やハンガリーの国造りに力を注ぎ、百年の時間を超えても人々の感動を生み出す街を創造した。国を創る気概に燃えた政治家や芸術家が、命をかけて仕上げた創造物は、世紀を超える時間を生き続ける。

これにたいして、現代の政治家はどうだろう。政治は私服を肥やす手段に成り下がり、甘い汁を吸える権力を維持するためなら、甘い言葉で国民を手なずけて延命を図る。そして、権力維持が難しくなると、国外に敵を作って民族主義を煽り、権力の継続を図ろうとする。その点で、日本もヨーロッパも大差ない。

電気・ガス料金の強制値下げ

ほとんどの人々は経済の仕組みに不案内だから、経済政策で国民を騙すのにそれほどの知恵は要らない。ハンガリー政府は民間企業が経営する電気・ガス会社の料金を強制的に下げさせる法案を作り、政府の介入によって節約できた金額を毎月の料金請求書に記載している。「貴方は政府の料金引下げ政策によって、今月は00Ftの金額を節約することができました。政府がこの政策を導入してから、貴方が節約できた金額は合算して00Ftになります」という文言が、毎月の請求書に記載されている。

27%もの高率の消費税を徴収しながら、電気・ガス料金の数パーセントの引下げ額を毎月、請求書に記載させている。一般消費税率を下げれば、民間企業に電気・ガス料金の値下げを強制しなくても、料金節約分程度の所得を回収することができる。途方もない消費税を徴収しながら、他方で数パーセントの電気・ガス料金の値下げを政府が強制した「成果」を恩着せがましく、毎月の請求書に「政府の政策のお陰」と記載させている。その請求書を毎月受け取る国民は、政府の慈悲政策に感謝するだろうことが想定されている。国民の無知につけ込んだ、政権政党の典型的なポピュリズム政策である。

欧州委員会はこのハンガリー政府の政策について、「民間企業への不当な介入であり、政権政党の政治的キャンペーンの日常化の疑いがある」という立場をとっており、その審査が続いている。これにたいして、ハンガリー政府は、「欧州委員会はハンガリーの主権を侵し、ハンガリー政府の政策にケチを付け、国民が享受している利益を奪おうとしている」というキャンペーンを張っている。

ハンガリー政府は難民・移民の取り扱いをめぐる欧州委員会と対立しているが、難民・移民問題に引っかけて、「欧州委員会は何ごとについても、国民を守るハンガリー政府の政策にケチを付け、ハンガリーの主権にもとづいて施行している政策を撤廃させようとしている」という反欧州委員会キャンペーンを行っている。



これが「ブリュッセルを止めよう。国民対話 2017」という政府キャンペーンポスターである。ご丁寧にも、ハンガリー政府は「国民対話」と称して、有権者にアンケート調査の手紙を送り、欧州委員会の政策への賛否を問うている。「政府は欧州委員会の横暴からハンガリー国民を守っている」という印象を植え付けるための政治的キャンペーンである。こういうやり方も、「政権政党の政治的キャンペーン」の疑いがあると調査を受けている。このアンケート調査に回答した有権者は 1 割にも満たず、そのために、有権者全員に手紙を送付するという税金の無駄遣いが行われている。

それほど欧州委員会の政策と相容れないなら、EU を脱退したらどうかという批判が寄せられるのは当然のことである。しかし、現政権には脱退の意思など一欠片もない。だから、欧州委員会の調査に素直に応じ、勧告を受け入れ、修正する姿勢を崩していない。要するに、国内向けのキャンペーンと欧州委員会との対外交渉を使い分ける二枚舌政策を行っている。これがハンガリー政府のポピュリズム政策である。

暴露される腐敗

右左に関係なく、「長期化する独裁権力は必ず腐敗する」。現ハンガリーの政府を構成する政党 FIDESZ は、体制展開以後、長期に続いた社会党政権の腐敗に乗じて政権を奪取した。とくにシュトブダペストの社会党の腐敗はひどく、2014 年の総選挙では拠点であった首都圏の議席をほとんど失うほどに凋落してしまった。

社会党の腐敗批判に乗じて権力を得た現政権だが、2 期続いている FIDESZ 政権の幹部にかかわる腐敗の情報が頻繁に暴露されるようになった。ハンガリーでは、内閣府や省庁のトップがある程度裁量を利かせることができる予算や EU 補助金がかかなりある。それが政権政党の政治家やその周辺の事業者の私服を肥やしている。自由にできる巨額の資金に手を付けない政治家はいない。何のことはない、社会党時代と大差ない。だから、政治的無関心層が有権者の 4 割を超える。右であろうが左であろうが、政治家の腐敗に差異などないからである。



右がオルバン首相、左がメーサーロシュ町長

ハンガリー首相オルバンはアルチュートドボズという小さな村に育ち、隣村のフェルチュートで小学校時代を過ごした。そのフェルチュートの現在の町長メーサーロシュ・リューリンツは、2016年現在で1000億Ft（およそ400億円）の資産を保有する長者になった。もちろん、メーサーロシュ町長とオルバン首相は切っても切れない仲にある。事業を営んでいるとはいえ、田舎町の町長がこれほどの巨額の資産を真つ当な事業で稼げるはずがない。巨額の補助金事業を受注した結果である。

2016年に偶然に、メーサーロシュ町長がアドリア海沿岸ザダル港近くに所有している別荘（220万ユーロ）の存在が明らかになった。クロアチアのサッカー選手に貸していた別荘を熱狂的サッカーファンか、あるいはマフィアが襲撃したことから、この別荘の存在が明らかになった。こうやって蓄財したお金を国外の資産購入に充てている。

他方、オルバン首相だが、彼の父が高速道路の砂利運搬事業や、建築廃材の埋め立て事業で巨額の富を獲得した。オルバン首相は5人の子持ちだが、長女ラーヘルが年間学費58,860スイスフランもするローザンヌの大学に通っていることがメディアで報じられた。ラーヘルは自分たちのお金で学費を捻出したと強弁したが、娘婿ティボルツ・イシュトヴァーンが新設した会社が地方自治体を經由してEU補助金申請を出し、巨額の補助金を獲得して、突然に億万長者になったことも報じられた。

こういう事情から、ブダペスト市内にはオルバン首相とメーサーロシュ町長の顔写真が、大きなポスターで掲示されている。このポスターは極右翼政党とみなされているヨッビク（JOBBIK）が政治キャンペーンとして全国に設置しているもので、「彼らが（公金を）盗んでいる」、「われわれはそれを取り返そう、そして賃金引上げに使おう」と書かれている。

このJOBBIKのキャンペーンポスターにはいろいろなヴァージョンがあり、同じく巨額の補助金取得の疑いがかけている内閣府長官ローガンと、やはり同じ嫌疑をかけられているオルバン首相の個人的顧問ハポーニイがセットになっているポスターがある。



右がローガン内閣府長官、左がハボーニィ顧問（「彼らが盗んでいる」）

ローガンは俗物的な知恵者で、「電気・ガス料金強制値下げ」の発案した功績で内閣府長官のポストを得た。また、ハンガリー国債を 30 万ユーロ購入すれば、ハンガリーの永住権を取得できるというスキームを発案したのもローガンだとされる。ローガンは主として中国人を相手にしたこのビジネスで儲けるために、永住権付き国債の売買を仲介するオフショア企業を作り、この企業は 70 億 Ft の収益を上げたと言われる。

2016 年 10 月には知人の結婚式に出席するのにヘリコプターを使い、ベンツの高級車が送迎したことがメディアに暴露された。もちろん、自分のお金は一切使っていない。まさに、成り上がり者である。

ハボーニィは政治家ではなく、もともと芸術短期大学で学んだ彫像家であったが、政治家との個人的関係を利用して蓄財に励み、オルバン首相の個人顧問として、芸術文化の分野の「助言者」として、威勢を張っている。たいした能力もないのに、政治家とのコネで成り上がった人物である。政権政党支持者の間でも、評判は良くない人物として知られている。

なお、ハボーニィはこのポスターの写真が無断で使用されたとして告訴している。

政権政党の反論ポスター

野党のポスター攻勢にたいして、政権政党である FIDESZ も反撃し、社会党は億万長者ソロスの支援を受け、JOBBIK は FIDESZ から離脱しオルバン首相の政敵となった億万長者シミチカの支援を受けているという巨大ポスターを設置した。

このポスターの左には、社会党党首ボトゥカを操るソロスが、右には JOBBIK 党首ヴォナを操るシミチカが配置されている。野党の活動資金を提供しているのは、これらの億万長者だというキャンペーンである。

シミチカはオルバン首相の僚友として、長らく FIDESZ のメディア網構築を一手に引き受けてきた。その結果、Hir TV や日刊紙 Magyar Nemzet、高速道路建設会社 Kozgep、街中の広告塔管理会社 Mahirなどを所有し、巨額公共事業を受注し巨額の富を築いてきた。しかし、その成功は、皮肉なことに、オルバン首相との権力争いを勃発させることになり、

シミチカは政権政党 FIDESZ を離れ、反オルバンの姿勢を示すようになった。



ソロスが社会党党首ボトゥカを、シミチカが JOBBIK 党首ヴォナを操っているという風刺ポスター

今次の JOBBIK のポスター作戦では、シミチカ所有の広告塔会社 Mahir がポスター設置の仕事を請け負った。そこから、JOBBIK のポスターキャンペーンの資金は、シミチカから出ているのではないかと囁かれている。そこからこの反論ポスターが生まれた。

他方、社会党党首ボトゥカにたいする風刺は、党首に選ばれたボトオカが、「富者がもっと（税を）負担して、公正を実現しよう」というポスターをもじったものである。「億万長者に支えられているのが野党ではないか」というキャンペーンである。



社会党は旧態依然として、貧者の味方を自認して、所得税の累進課税などを主張しているが、政権政党と同様に、野党も現在のハンガリー経済の基本問題の所在を理解していない。だから、相互にちぐはぐなポスター合戦になっている。

来年の総選挙に備えた前哨戦が、巨大ポスターによる中傷合戦として展開されているのが、今のハンガリーの政治である。